

2016年度都市経営学研究科入試問題

専門科目問題

(90分)

※専門科目は一般選抜で受験した場合のみ受験科目となります。

以下のA（計画・環境系 A-1～A-3）およびB（経済・社会系 B-1～B-3）の設問群から、それぞれ1問ずつ選んで解答しなさい。

A（計画・環境系）

A-1 地震動の大きさは、一般に震源からの距離とともに減衰する。しかし、2004年10月23日に発生した新潟県中越地震（M6.8）では、震源から約150km離れた地点のうち、関東平野の一部で震度4の強い揺れが観測された（下図）。震源からの距離が同じであっても、地震動の大きさが異なる原因について考えられることを述べなさい。

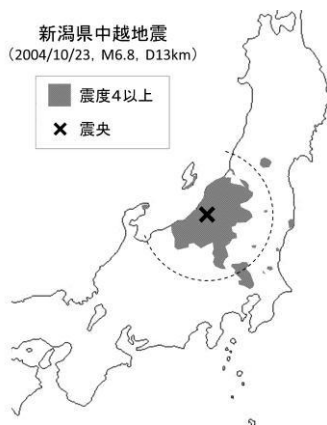


図 2004年新潟県中越地震の震度分布

図中の×印は震央、陰の領域は震度4以上の地域、破線は震央から150km離れた地点を示す。図左上括弧内のMはマグニチュード、Dは震源の深さを表す。本震度分布は気象庁資料に基づく。

A-2 都市中心部の街路樹は景観の向上や路面温度の上昇抑制、眩光防止、大気汚染物質の固定などに役立つ。しかしその一方で、落ち葉の清掃や剪定などに巨額の公費を要する。また近年では倒木による人的被害も発生している。収収減によって自治体財源が逼迫する中で、この問題をいかに解決すべきか述べなさい。

A-3 近年、多くの都市において、都市計画道路の廃止・変更等の見直しが行われてきている。このような取り組みが進められてきている背景（理由）を、①路線見直しの必要性、②自治体の財政状況、③長期未着手の状況、という3つの観点より、1つずつ挙げなさい。

B (経済・社会系)

B-1 1908年から市場に現れるT型フォードを生産するにあたって、H.フォードが考案したフォード・システムについて、以下のキーワードをすべて使って述べなさい。ただし、キーワードを使う順序は問わない。

キーワード：3S (製品の単純化, 部品の共通化, 工具の特殊化), 規模の経済, チャップリンのモダンタイムス, 標準化, 動作研究, 時間研究, 同時管理

B-2 日本の少子高齢化について、日本の総人口の概要とともに、その展開についての概略を記し、さらに大きな課題となっている、地域社会に対する人口減・少子高齢化の影響について述べなさい。なお、その際「日本総人口のピーク」「現在の高齢者人口」「高齢社会」「高齢化社会」「超高齢社会」の言葉を、説得的な形で文中に用いること。

B-3 ある場所ではゴミ集積所ではない場所であるにもかかわらず、その所有者Aがリサイクル事業を営んでいると称してゴミと見なされるものをため込み、それが野積みの状態で放置されている。それにより、周辺の景観が損ねられ、周囲に悪臭が漂っている。その場所に隣接する形で、商店Bが営業を行っている。Aは事業で200万円の収益を上げている。Bは周囲の環境が悪くなければ、400万円の収益を上げることができるが、景観悪化と悪臭のため、300万円の収益が損なわれているとする。A、Bともに経済合理的な行動をとるものとし、以下の間に答えなさい。

- (1) 上記の問題について、取引費用が存在しない場合、法的責任が生じるケースとそうでないケースの両方について、資源配分と所得分配はそれぞれどのようなようになるかを、コースの定理にもとづいて示しなさい。
- (2) 法的責任が生じない場合の交渉で取引費用が200万円かかる場合には、(1)の状況はどのように変化するかについて論じなさい。

(問題は以上です。以下は白紙です。)